



成隣だより

平成28年4月28日
第2号
昭島市立成隣小学校
校長 加賀田 真理



言葉を通して、人とかかわる

校長 加賀田 真理

入学・進級してからひと月がたちました。子供たちも、それぞれ新しい学校生活のペースに少しづつ慣れてきた様子です。新たな担任の先生との出会いや、ひとつ上の学年としての新たな取り組みなど、若干の緊張感を伴った1か月だったかもしれません、「今年度は、このことをがんばろう！」と年度当初に思った新鮮な気持ちを保ち続けて、これからも意欲をもって過ごしてほしいと思います。ただ、疲れも出てくる時です。この連休中は休息も上手にとるようにしていただき、心身ともに体調を整える機会としてご活用ください。

さて、春は新たな出会いが多くありました。

この新たな出会いを生かし、友達との心の距離を縮め、人間関係を広げていく際に有効な手段は、あいさつ、そして言葉を交わすことだと考えています。

大きな声で元気のよいあいさつを交わすことで、互いに心と体を自覚めさせ、さわやかに一日を始めることができるよう、学校でもあいさつを大切にしています。にこにこしながら話しかけてくる相手には、だれもが親近感をもつことでしょう。

また、あいさつだけでなく、言葉の使い方ひとつで人の気持ちを変えていくこともできます。

「だいじょうぶ？」などの気遣う言葉や、「君ってすごいね。」「がんばってるね。」など、自分を認めてもらえる言葉をかけてもらえば、言われた人は元気が出て、声をかけてくれた人に親しみをもつことと思います。

このような言葉をかけるタイミングや、言葉の使い方ひとつで人の心の距離が近づいたり、離れたりしてしまうことがあることは、だれにでも経験があるのでないでしょうか。

人は言葉を通して人とかかわり、心の距離や、場合によっては物理的な距離を調節しています。たったの一言で心の距離が急速に近づいたり、たったの一言でとても親しい人と疎遠になってしまったりすることがあります。

子供たちの日常の様子を見ても、言葉が足りなかったり、まだまだ語彙も少なく、場面に応じた適切な言葉の遣い方ができなかったりするために、トラブルとなってしまうことがあるようです。

「このときには、どんな言葉で話せばよかったですかな。」「そのことが嫌だという気持ちを、言葉で相手に伝えてみたら。」など、その場その場で発達段階に応じて指導を行っています。

このような指導に繰り返し取り組むことを通して、嫌なことがあったときには「ねえ、そのことはとても嫌なんだけれどもやめてくれないかな。」と話しかけたり、仲間に入れてほしいときには「入れて。」「一緒に遊ぼう！」などの言葉をかけたりできる子供を育てたいと思います。

不快な接し方をしてくる相手を上手に回避したり、仲間をどんどん増やしたりすることができるという力と自信は、自立や豊かな人生を送るための大切な基盤となることでしょう。

「自分の居場所を集団の中に築くことができる言葉の力」を育てたい。

そんな願いをもちながら、言葉を通して上手に人とかかわることができる子供たちを育てる取り組みを進めてまいります。

ご家庭でも、ていねいに自分の気持ちと向き合い、時間はかかってもその気持ちを言葉で表現することができるような機会を大切にしていただけますようお願いいたします。